

資料2 障害者の推移と現状

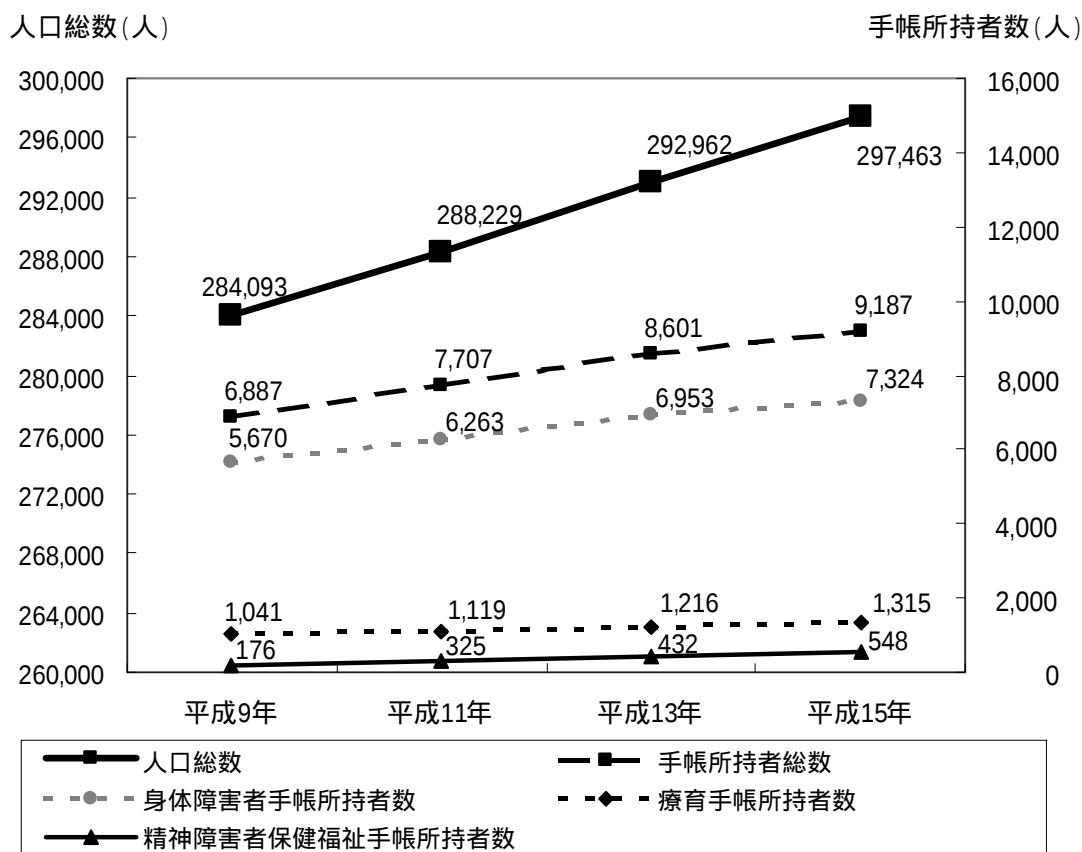
- 手帳所持者数は、各手帳所持者の各年10月1日現在の市への登録者数調べによるものです。なお、精神障害者保健福祉手帳の平成9年、11年、13年の各年10月1日現在の所持者数は、春日井保健所提供資料によるものです。
- 総人口は、各年10月1日現在の住民基本台帳と外国人の登録者数で、町・丁目人口報告によるものです。

1 本市の総人口と各障害者手帳所持者数の推移

近年の本市の総人口と各障害者手帳所持者数の推移をみると、総人口は年間1%弱のほぼ一定の割合で増加しているのに対して、手帳所持者数は、より大きい増加率を示していますが、徐々に緩やかな増加となっています。

また、本市の総人口に対する各障害者手帳所持者数の比率をみると、平成15年10月現在で、手帳所持者数全体で約3%を占めています。

本市の総人口と各障害者手帳所持者数の推移



(単位人)

区 分		平成 9 年 (1997)	平成 11 年 (1999)	平成 13 年 (2001)	平成 15 年 (2003)
人口総数		284,093	288,229	292,962	297,463
手帳所持者総数		6,887	7,707	8,601	9,187
対総人口比率		2.42%	2.67%	2.94%	3.09%
内 訳	身体障害者手帳所持者数	5,670	6,263	6,953	7,324
	対総人口比率	2.00%	2.17%	2.37%	2.46%
	療育手帳所持者数	1,041	1,119	1,216	1,315
	対総人口比率	0.37%	0.39%	0.42%	0.44%
	精神障害者保健福祉手帳所持者数	176	325	432	548
	対総人口比率	0.06%	0.11%	0.15%	0.18%

2 年齢別手帳所持者数の推移

(平成 15 年 10 月 1 日現在、単位人)

区 分		児童期	青年期	壮年期	高齢期	総数
手帳所持者		653	1,418	2,879	4,237	9,187
年齢区分構成比率		7.11%	15.43%	31.34%	46.12%	100.00%
内 訳	身体障害者手帳所持者数	217	571	2401	4,135	7,324
	年齢区分構成比率	2.90%	7.80%	32.78%	56.46%	100.00%
	療育手帳所持者	434	669	183	29	1,315
	年齢区分構成比率	33.00%	50.87%	13.92%	2.21%	100.00%
	精神保健福祉手帳所持者	2	178	295	73	548
	年齢区分構成比率	0.36%	32.48%	53.83%	13.32%	100.00%

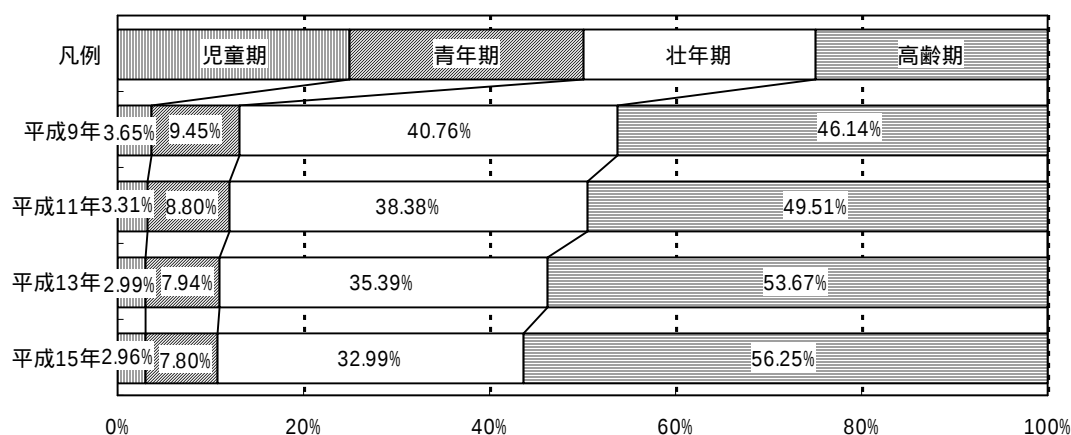
3 身体障害者手帳所持者の推移と現状

(1) 年齢別の推移

年齢別構成比の推移をみると、18 歳未満（以下、児童期といいます）、18～39 歳（以下、青年期といいます）、40～64 歳（以下、壮年期といいます）の方は減少しており、65 歳以上（以下、高齢期といいます）の方は大幅に増加しています。

平成 15 年 10 月 1 日現在の手帳所持者の年齢別構成比をみると、高齢期の方が 56.25%と最も多く、次いで壮年期の方が 32.99%となっています。

年齢別構成比の推移



(単位人)

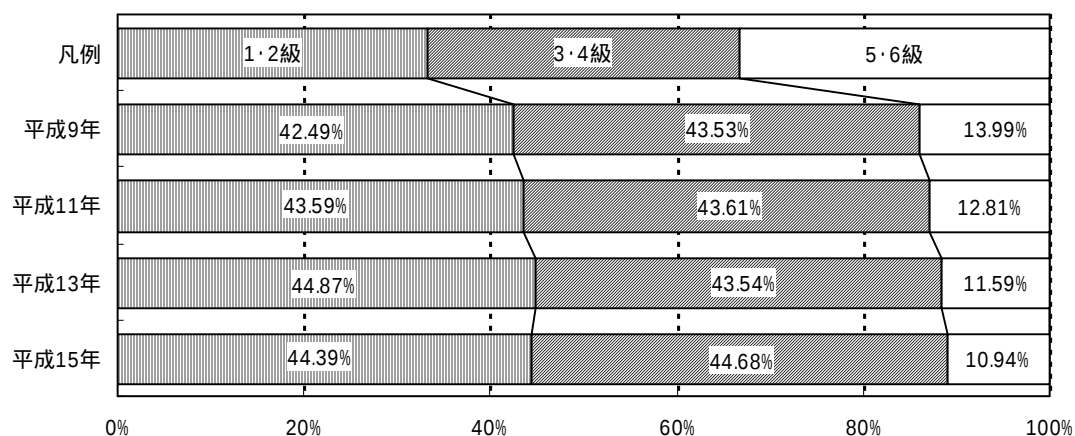
区 分	児童期	青年期	壮年期	高齢期	合計
平成 9 年	207	536	2,311	2,616	5,670
構成比率	3.65%	9.45%	40.76%	46.14%	100.00%
平成 11 年	207	551	2,404	3,101	6,263
構成比率	3.31%	8.80%	38.38%	49.51%	100.00%
平成 13 年	208	552	2,461	3,732	6,953
構成比率	2.99%	7.94%	35.39%	53.67%	100.00%
平成 15 年	217	571	2,416	4,120	7,324
構成比率	2.96%	7.80%	32.99%	56.25%	100.00%

(2) 障害の程度別の推移

障害の程度別構成比の推移をみると、1・2級の重度の方が増加している一方、5・6級の軽度の方が減少しています。3・4級の中度の方はわずかに増加しています。

平成15年10月1日現在の手帳所持者の障害の程度別構成比をみると、3・4級の方が44.68%と最も多く、次いで1・2級の方が44.39%となっています。

障害の程度別構成比の推移



(単位人)

区 分	1・2 級 (重度)	3・4 級 (中度)	5・6 級 (軽度)	合計
平成 9 年	2,409	2,468	793	5,670
構成比率	42.49%	43.53%	13.99%	100.00%
平成 11 年	2,730	2,731	802	6,263
構成比率	43.59%	43.61%	12.81%	100.00%
平成 13 年	3,120	3,027	806	6,953
構成比率	44.87%	43.54%	11.59%	100.00%
平成 15 年	3,251	3,272	801	7,324
構成比率	44.39%	44.68%	10.94%	100.00%

(3) 年齢別・等級別手帳所持者数の現状

(平成 15 年 10 月 1 日現在、上段：人数、下段：構成比率、単位人)

区 分	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	総計
児童期	79	55	61	10	2	10	217
	36.41%	25.35%	28.11%	4.61%	0.92%	4.61%	100.00%
青年期	163	126	132	73	45	32	571
	28.55%	22.07%	23.12%	12.78%	7.88%	5.60%	100.00%
壮年期	642	392	551	499	205	112	2,401
	26.74%	16.33%	22.95%	20.78%	8.54%	4.66%	100.00%
高齢期	1,053	741	1,136	810	215	180	4,135
	25.47%	17.92%	27.47%	19.59%	5.20%	4.35%	100.00%
合 計	1,937	1,314	1,880	1,392	467	334	7,324
	26.45%	17.94%	25.67%	19.01%	6.38%	4.56%	100.00%

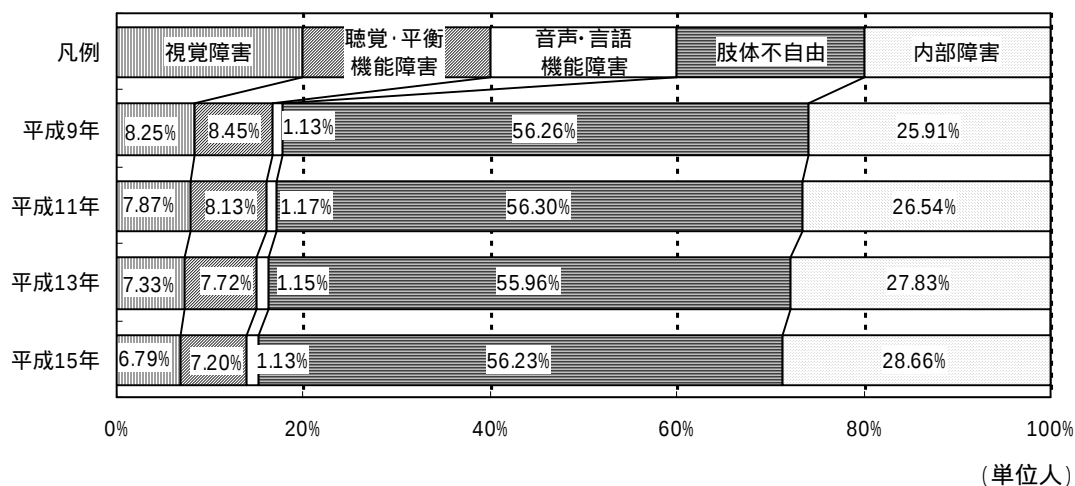
(4) 障害の部位別の推移

障害の部位別構成比の推移をみると、内部障害の方が増加している一方、視覚障害、聴覚・平衡機能障害、肢体不自由の方が減少しています。音声・言語機能障害の方は横ばいの傾向にあります。

平成 15 年 10 月 1 日現在の手帳所持者の障害の部位別構成比をみると、肢体不自由の方が 56.23%と最も多く、次いで内部障害の方が 28.66%となっています。

18 歳未満の障害児は、視覚障害、音声・言語機能障害の方が減少しています。

障害の部位別構成比の推移



区 分	視覚障害	聴覚・平衡機能障害	音声・言語機能障害	肢体不自由	内部障害	合計
平成 9 年	468	479	64	3,190	1,469	5,670
構成比率	8.25%	8.45%	1.13%	56.26%	25.91%	100.00%
内 18 歳未満	10	35	5	115	42	207
構成比率	4.83%	16.91%	2.42%	55.56%	20.29%	100.00%
平成 11 年	493	509	73	3,526	1,662	6,263
構成比率	7.87%	8.13%	1.17%	56.30%	26.54%	100.00%
内 18 歳未満	10	32	2	115	48	207
構成比率	4.83%	15.46%	0.97%	55.56%	23.19%	100.00%
平成 13 年	510	537	80	3,891	1,935	6,953
構成比率	7.33%	7.72%	1.15%	55.96%	27.83%	100.00%
内 18 歳未満	11	33	1	120	43	208
構成比率	5.29%	15.87%	0.48%	57.69%	20.67%	100.00%
平成 15 年	497	527	83	4,118	2,099	7,324
構成比率	6.79%	7.20%	1.13%	56.23%	28.66%	100.00%
内 18 歳未満	8	30	1	129	49	217
構成比率	3.69%	13.82%	0.46%	59.45%	22.58%	100.00%

(5) 障害の部位別・年齢別手帳所持者数の現状

(平成 15 年 10 月 1 日現在、上段：人数、下段：構成比率、単位人)

区 分		児童期	青年期	壮年期	高齢期	合計
視覚障害		8	39	141	309	497
		1.61%	7.85%	28.37%	62.17%	100.00%
聴覚・平衡機能障害		30	56	125	316	527
		5.69%	10.63%	23.72%	59.96%	100.00%
音声・言語・そしゃく機能障害		1	17	30	35	83
		1.20%	20.48%	36.14%	42.17%	100.00%
肢体不自由		129	345	1377	2267	4118
		3.13%	8.38%	33.44%	55.05%	100.00%
内 訳	上肢	11	72	342	410	835
		1.32%	8.62%	40.96%	49.10%	100.00%
	下肢	10	88	589	834	1521
		0.66%	5.79%	38.72%	54.83%	100.00%
	体幹	107	181	445	1022	1755
		6.10%	10.31%	25.36%	58.23%	100.00%
	運動機能障害	1	4	1	1	7
		14.29%	57.14%	14.29%	14.29%	100.00%
内部障害		49	114	728	1208	2099
		2.33%	5.43%	34.68%	57.55%	100.00%
内 訳	心臓機能障害	39	64	318	637	1058
		3.69%	6.05%	30.06%	60.21%	100.00%
	腎臓機能障害	3	43	318	294	658
		0.46%	6.53%	48.33%	44.68%	100.00%
	呼吸器機能障害	3	3	23	120	149
		2.01%	2.01%	15.44%	80.54%	100.00%
	ぼうこう・直腸・小腸機能障害	4	4	69	157	234
		1.71%	1.71%	29.49%	67.09%	100.00%
合 計		217	571	2401	4135	7324
		2.96%	7.80%	32.78%	56.46%	100.00%

乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害

(6) 障害の部位別・程度別の現状

(平成 15 年 10 月 1 日現在、上段：人数、下段：構成比率、単位人)

区 分		1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	合計
視覚障害		163	154	56	31	54	39	497
		32.80%	30.99%	11.27%	6.24%	10.87%	7.85%	100.00%
聴覚・平衡機能障害		31	157	87	107	2	143	527
		5.88%	29.79%	16.51%	20.30%	0.38%	27.13%	100.00%
音声・言語・そしゃく機能障害		1	5	45	32	0	0	83
		1.20%	6.02%	54.22%	38.55%	0.00%	0.00%	100.00%
肢体不自由		733	977	1049	796	411	152	4118
		17.80%	23.73%	25.47%	19.33%	9.98%	3.69%	100.00%
内 訳	上肢	143	172	169	208	88	55	835
		17.13%	20.60%	20.24%	24.91%	10.54%	6.59%	100.00%
	下肢	87	166	396	587	188	97	1521
		5.72%	10.91%	26.04%	38.59%	12.36%	6.38%	100.00%
	体幹	500	638	481	1	135	0	1755
		28.49%	36.35%	27.41%	0.06%	7.69%	0.00%	100.00%
	運動機能障害	3	1	3	0	0	0	7
		42.86%	14.29%	42.86%	0.00%	0.00%	0.00%	100.00%
内部障害		1009	21	643	426	0	0	2099
		48.07%	1.00%	30.63%	20.30%	0.00%	0.00%	100.00%
内 訳	心臓機能障害	463	13	491	91	0	0	1058
		43.76%	1.23%	46.41%	8.60%	0.00%	0.00%	100.00%
	腎臓機能障害	529	5	47	77	0	0	658
		80.40%	0.76%	7.14%	11.70%	0.00%	0.00%	100.00%
	呼吸器機能障害	13	3	94	39	0	0	149
		8.72%	2.01%	63.09%	26.17%	0.00%	0.00%	100.00%
	ぼうこう・直腸・小腸機能障害	4	0	11	219	0	0	234
		1.71%	0.00%	4.70%	93.59%	0.00%	0.00%	100.00%
合 計		1937	1314	1880	1392	467	334	7324
		26.45%	17.94%	25.67%	19.01%	6.38%	4.56%	100.00%

乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害

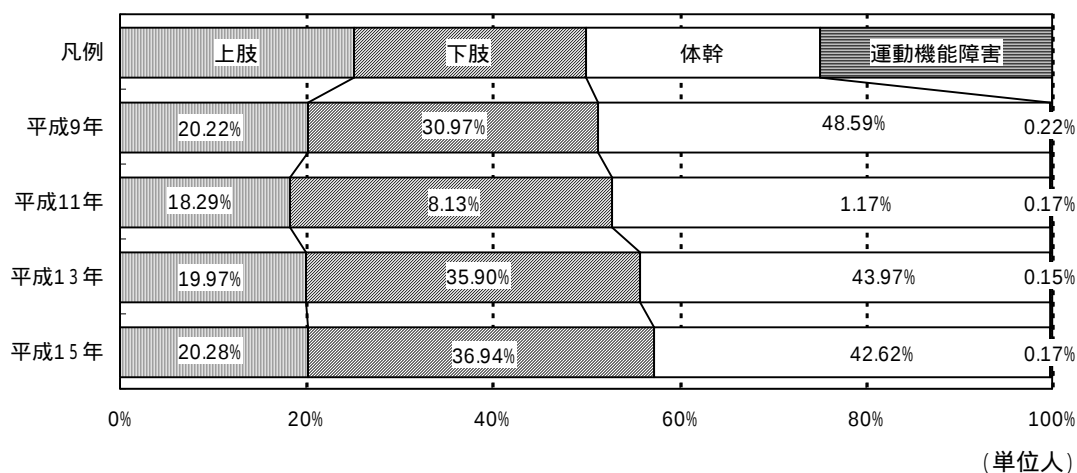
(7) 肢体不自由の内訳別の推移

肢体不自由の方の内訳別構成比の推移をみると、下肢機能障害の方が増加している一方、体幹機能障害の方が減少しています。上肢機能障害、運動機能障害（乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害）の方は横ばいの傾向にあります。

平成 15 年 10 月 1 日現在の肢体不自由の方の内訳別構成比をみると、体幹機能障害の方が 42.62%と最も多く、次いで下肢機能障害の方が 36.94%となっています。

18 歳未満の障害児は、上肢機能障害、下肢機能障害、体幹機能障害の方が増加しています。

障害の部位別（肢体不自由の内訳）構成比の推移



(単位人)

区 分	上肢	下肢	体幹	運動機能障害	合計
平成 9 年	645	988	1,550	7	3,190
構成比率	20.22%	30.97%	48.59%	0.22%	100.00%
内 18 歳未満	12	4	97	2	115
構成比率	10.43%	3.48%	84.35%	1.74%	100.00%
平成 11 年	645	1,216	1,659	6	3,526
構成比率	18.29%	34.49%	47.05%	0.17%	100.00%
内 18 歳未満	12	4	97	2	115
構成比率	10.43%	3.48%	84.35%	1.74%	100.00%
平成 13 年	777	1,397	1,711	6	3,891
構成比率	19.97%	35.90%	43.97%	0.15%	100.00%
内 18 歳未満	8	6	105	1	120
構成比率	6.67%	5.00%	87.50%	0.83%	100.00%
平成 15 年	835	1,521	1,755	7	4,118
構成比率	20.28%	36.94%	42.62%	0.17%	100.00%
内 18 歳未満	11	10	107	1	129
構成比率	8.53%	7.75%	82.95%	0.78%	100.00%

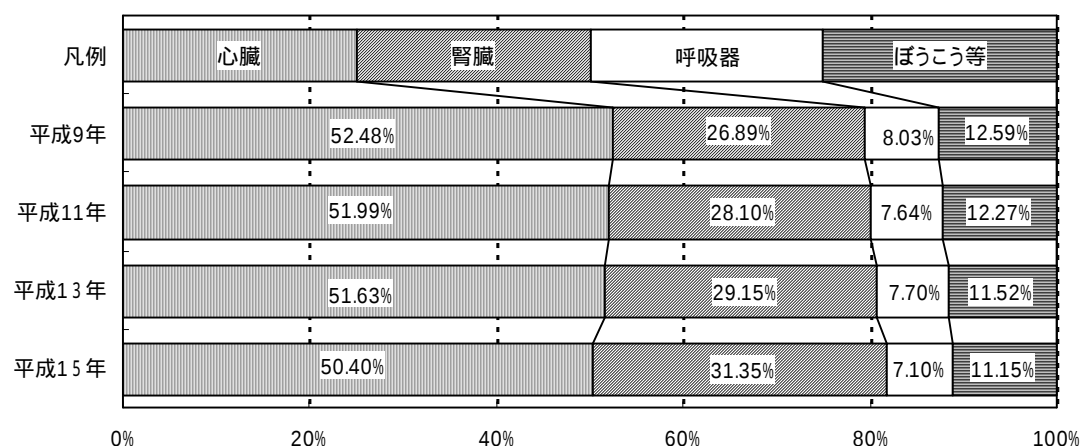
(8) 内部障害の内訳別の推移

内部障害の方の内訳別構成比の推移をみると、腎臓機能障害の方が増加している一方、呼吸器機能障害、ぼうこう等（ぼうこう・直腸・小腸機能障害）機能障害の方が減少しています。心臓機能障害の方は横ばいの傾向にあります。

平成 15 年 10 月 1 日現在の内部障害の方の内訳別構成比をみると、心臓機能障害の方が 50.40 % と最も多く、次いで腎臓機能障害の方が 31.35 % となっています。

18 歳未満の障害児は、内部障害の内訳別構成比の大きな変化は見られません。

障害の部位別（内部障害の内訳）構成比の推移



(単位人)

区 分	心臓	腎臓	呼吸器	ぼうこう等	合計
平成 9 年	771	395	118	185	1,469
構成比率	52.48%	26.89%	8.03%	12.59%	100.00%
内 18 歳未満	35	2	2	3	42
構成比率	83.33%	4.76%	4.76%	7.14%	100.00%
平成 11 年	864	467	127	204	1,662
構成比率	51.99%	28.10%	7.64%	12.27%	100.00%
内 18 歳未満	40	3	2	3	48
構成比率	83.33%	6.25%	4.17%	6.25%	100.00%
平成 13 年	999	564	149	223	1,935
構成比率	51.63%	29.15%	7.70%	11.52%	100.00%
内 18 歳未満	38	1	2	2	43
構成比率	88.37%	2.33%	4.65%	4.65%	100.00%
平成 15 年	1,058	658	149	234	2,099
構成比率	50.40%	31.35%	7.10%	11.15%	100.00%
内 18 歳未満	39	3	3	4	49
構成比率	79.59%	6.12%	6.12%	8.16%	100.00%

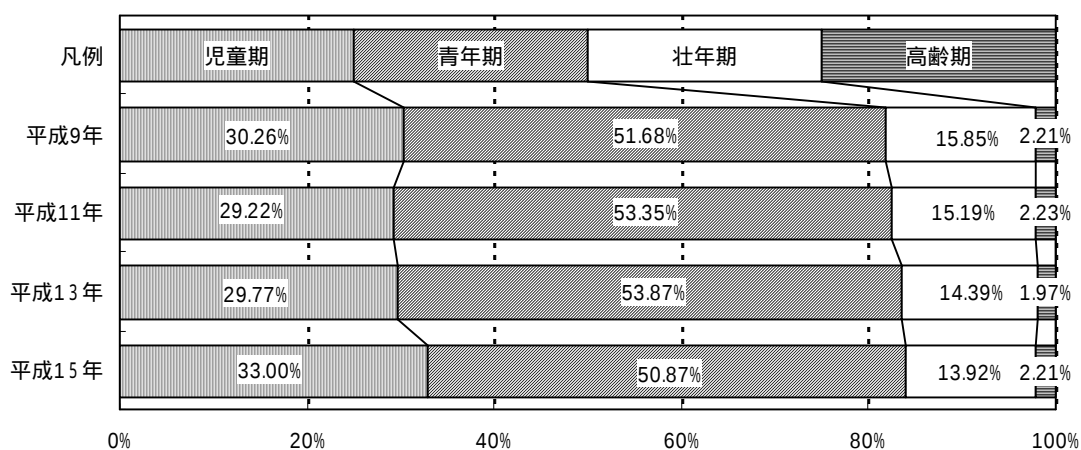
4 療育手帳所持者の推移と現状

(1) 年齢別の推移

年齢別構成比の推移をみると、壮年期の方はわずかに減少していますが、児童期、青年期、高齢期の方は横ばいの傾向にあります。

平成15年10月1日現在の手帳所持者の年齢別構成比をみると、青年期の方が50.87%と最も多く、次いで児童期の方が33.00%となっています。

年齢別構成比の推移



(単位人)

区 分	児童期	青年期	壮年期	高齢期	合計
平成9年	315	538	165	23	1,041
構成比率	30.26%	51.68%	15.85%	2.21%	100.00%
平成11年	327	597	170	25	1,119
構成比率	29.22%	53.35%	15.19%	2.23%	100.00%
平成13年	362	655	175	24	1,216
構成比率	29.77%	53.87%	14.39%	1.97%	100.00%
平成15年	434	669	183	29	1,315
構成比率	33.00%	50.87%	13.92%	2.21%	100.00%

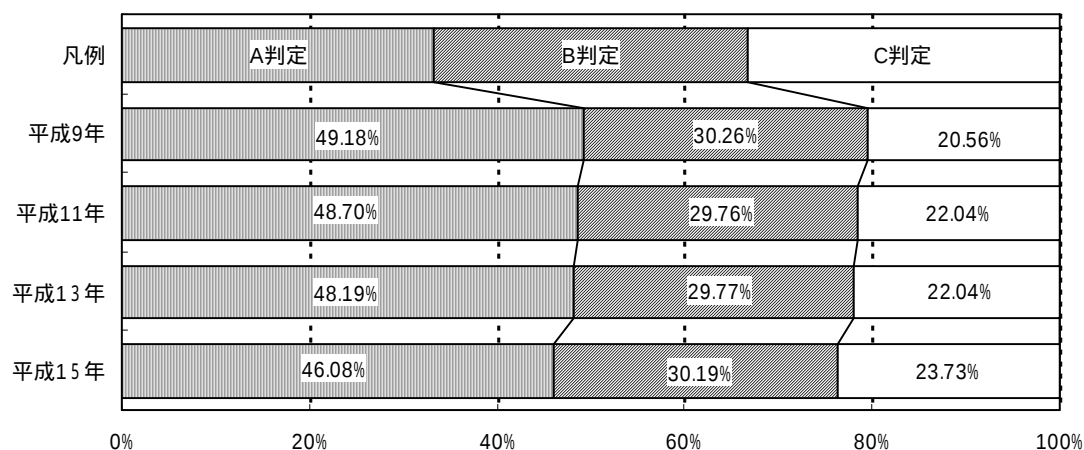
(2) 障害の程度別の推移

障害の程度別構成比の推移をみると、C 判定の軽度の方が増加している一方、A 判定の重度の方が減少しています。B 判定の中度の方は横ばいの傾向にあります。

平成 15 年 10 月 1 日現在の手帳所持者の障害の程度別構成比をみると、A 判定の方が 46.08%と最も多く、次いで B 判定の方が 30.19%となっています。

18 歳未満の障害児も、同じ様な傾向にあります。

障害の程度別構成比の推移



(単位人)

区 分	A 判定 (重度)	B 判定 (中度)	C 判定 (軽度)	合計
平成 9 年	512	315	214	1,041
構成比率	49.18%	30.26%	20.56%	100.00%
内 18 歳未満	162	91	62	315
構成比率	51.43%	28.89%	19.68%	100.00%
平成 11 年	545	333	241	1,119
構成比率	48.70%	29.76%	21.54%	100.00%
内 18 歳未満	165	94	68	327
構成比率	50.46%	28.75%	20.80%	100.00%
平成 13 年	586	362	268	1,216
構成比率	48.19%	29.77%	22.04%	100.00%
内 18 歳未満	181	111	70	362
構成比率	50.00%	30.66%	19.34%	100.00%
平成 15 年	606	397	312	1,315
構成比率	46.08%	30.19%	23.73%	100.00%
内 18 歳未満	193	124	117	434
構成比率	44.47%	28.57%	26.96%	100.00%

(3) 年齢別・障害の程度別の現状

(平成 15 年 10 月 1 日現在、上段：人数、下段：構成比率、単位人)

区 分	A 最重度	A 重度	A 合計	B 中度	C 軽度	総計
児童期	94	99	193	124	117	434
	21.66%	22.81%	44.47%	28.57%	26.96%	100.00%
青年期	179	137	316	183	170	669
	26.76%	20.48%	47.23%	27.35%	25.41%	100.00%
壮年期	38	47	85	74	24	183
	20.77%	25.68%	46.45%	40.44%	13.11%	100.00%
高齢期	2	10	12	16	1	29
	6.90%	34.48%	41.38%	55.17%	3.45%	100.00%
合 計	313	293	606	397	312	1315
	23.80%	22.28%	46.08%	30.19%	23.73%	100.00%

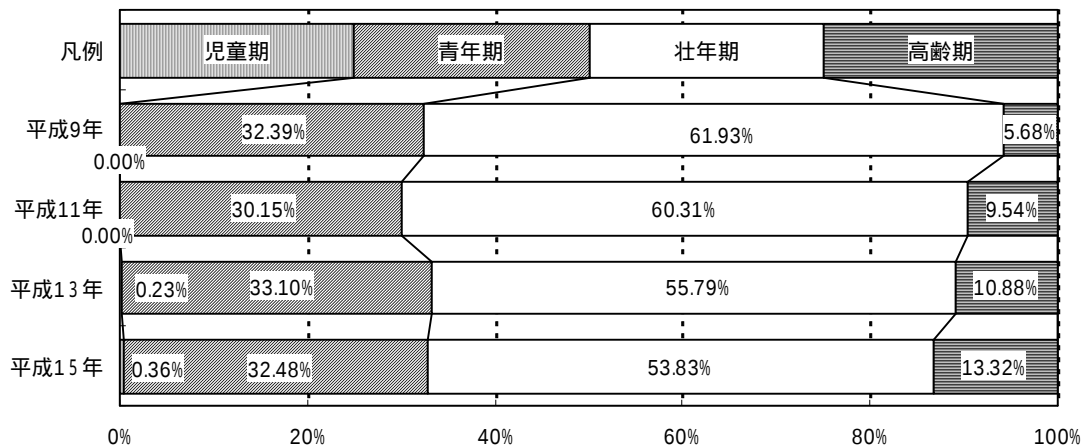
5 精神障害者保健福祉手帳所持者の推移と現状

(1) 年齢別の推移

年齢別構成比の推移をみると、青年期、高齢期の方は増加しており、壮年期の方は大幅に減少しています。

平成15年10月1日現在の手帳所持者の年齢別構成比をみると、壮年期の方が53.83%と最も多く、次いで青年期の方が32.48%となっています。

年齢別構成比の推移



(単位人)

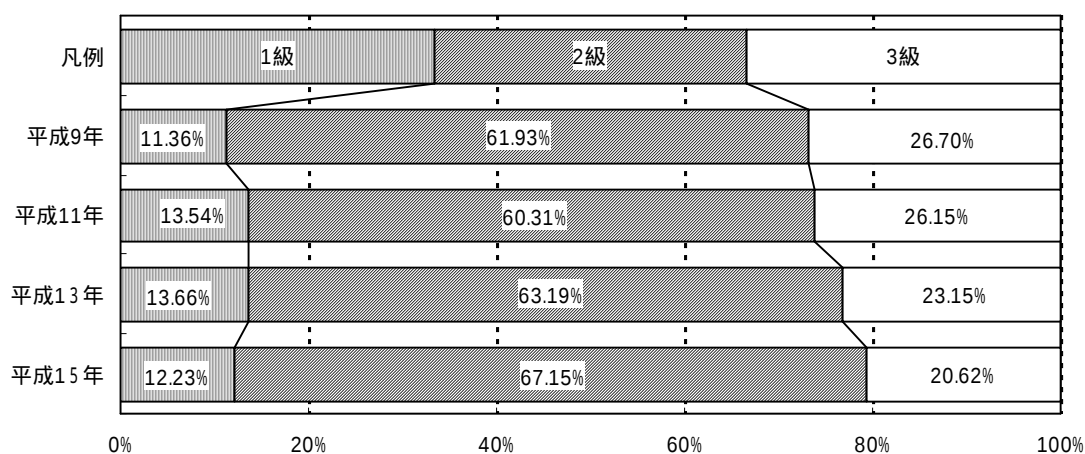
区 分	児童期	青年期	壮年期	高齢期	合計
平成9年	0	57	109	10	176
構成比率	0.00%	32.39%	61.93%	5.68%	100.00%
平成11年	0	98	196	31	325
構成比率	0.00%	30.15%	60.31%	9.54%	100.00%
平成13年	1	143	241	47	432
構成比率	0.23%	33.10%	55.79%	10.88%	100.00%
平成15年	2	178	295	73	548
構成比率	0.36%	32.48%	53.83%	13.32%	100.00%

(2) 障害の程度別の推移

障害の程度別構成比の推移をみると、1 級の方が増加している一方、3 級の方が減少しています。

平成 15 年 10 月 1 日現在の手帳所持者の障害の程度別構成比をみると、2 級の方が 67.15%と最も多く、次いで 3 級の方が 20.62%となっています。

障害の程度別構成比の推移



(単位人)

区 分	1 級	2 級	3 級	合計
平成 9 年	20	109	47	176
構成比率	11.36%	61.93%	26.70%	100.00%
内 18 歳未満	0	0	0	0
構成比率	-	-	-	-
平成 11 年	44	196	85	325
構成比率	13.54%	60.31%	26.15%	100.00%
内 18 歳未満	0	0	0	0
構成比率	-	-	-	-
平成 13 年	59	273	100	432
構成比率	13.66%	63.19%	23.15%	100.00%
内 18 歳未満	0	1	0	1
構成比率	0.00%	100.00%	0.00%	100.00%
平成 15 年	67	368	113	548
構成比率	12.23%	67.15%	20.62%	100.00%
内 18 歳未満	1	0	1	2
構成比率	50.00%	0.00%	50.00%	100.00%

(3) 年齢別・障害の程度別の現状

(平成 15 年 10 月 1 日現在、上段：人数、下段：構成比率、単位人)

区 分	1 級	2 級	3 級	総計
児童期	1	0	1	2
	50.00%	0.00%	50.00%	100.00%
青年期	13	123	42	178
	7.30%	69.10%	23.60%	100.00%
壮年期	33	199	63	295
	11.19%	67.46%	21.36%	100.00%
高齢期	20	46	7	73
	27.40%	63.01%	9.59%	100.00%
合 計	67	368	113	548
	12.23%	67.15%	20.62%	100.00%

6 難病患者の現状

特定疾患医療費公費負担 医療給付受給者数
1,075

平成 15 年 3 月 31 日現在(資料 春日井保健所)

特定疾患：国の難病対策要綱に基づく医療費の公費負担の対象となる特定疾患治療研究
対象疾患

愛知県特定疾患医療給付事業対象疾患

1 ベーチェット病	31 多系統萎縮症
2 多発性硬化症	32 表皮水泡瘡
3 重症筋無力症	33 膿疱性乾癬
4 全身性エリテマトーデス	34 広範脊柱管狭窄症
5 スモン	35 原発性胆汁性肝硬変
6 再生不良性貧血	36 重症急性膵炎
7 サルコイドーシス	37 特発性大腿骨頭壊死症
8 筋萎縮性側索硬化症	38 混合性結合組織病
9 強皮症	39 原発性免疫不全症候群
10 皮膚筋症	40 特発性間質性肺炎
11 多発性筋炎	41 網膜色素変性症
12 特発性血小板減少性紫斑病	42 プリオン病
13 結節性動脈周囲炎	43 原発性肺高血圧症
14 潰瘍性大腸炎	44 神経線維腫症(Ⅰ型・Ⅱ型)
15 大動脈炎症候群	45 亜急性硬化性全脳炎
16 ピュルガ - 病	46 バッド・キアリ症候群
17 天疱瘡	47 特発性慢性肺血栓塞栓症(肺高血圧型)
18 脊髄小脳変性症	48 ライソゾーム病
19 クローン病	49 副腎白質ジストロフィー
20 劇症肝炎	
21 血清肝炎	
22 肝硬変	
23 悪性関節リウマチ	
24 パーキンソン病	
25 アミロイドーシス	
26 後縦靱帯骨化症	
27 ハンチントン病	
28 モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	
29 ウェゲナー肉芽腫症	
30 特発性拡張型(うっ血型)心筋症	